

真和館だより 第16号

風の彩り

AA80周年インターナショナル・コンベンションに参加して



副施設長 藤本基子

AAの世界大会への参加目的はただ一つ、AA発祥の地アメリカに行き、「あること」を確かめたいという思いでした(AAIについては、次ページの高尾職員の記事をご参照願います)。

日本の行事や習慣、あるいは文化は仏教、神道、儒教に根ざしたものです。一方、アメリカはキリスト教が主流の国であり、それが社会習慣や文化の基盤でもあります。「朝に夕に祈り、食前に祈る、安息日には教会へ行き信仰告白をする」というように生活に密着しています。

ビルとボブが出会い、お互いの飲酒にまつわる問題について、祈り、告白しあうことが、AAミーティングの出発点と言われています。それほど「祈りと告白」は、ごく自然に行われていたのだろうと、想像たくましく、その場の光景まで心の中で描いていました。

これらの背景から察し、AAの根源は「祈りと告白」に違いない、と自分なりに勝手に解釈し、そのことをAA発祥の地に出向き、直接確かめたいとの思いで、その機会を狙っていたわけです。

AAの世界大会があることを聞いていたので、いつかは参加したいと願い、アンテナを立て待つこと数年、真和館の高尾職員から誘いを受け、即話が決まりました。いよいよチャンス到来です。

2015年7月1日から7月7日にかけてアメリカ・ジョージア州、アトランタで開催されたAA80周年インターナショナル・コンベンションに、JSO(NPO法人 AA日本ゼネラルサービス)のツアーで参加させていただく事になりました。

会場のアトランタのジョージアドームで「ビッグミーティング」が開催され、世界の93ヶ国から人々・電光掲示板の入場数が6万5千人を超えていました。10代と思われる若年者が多いのにも驚きました。

この日の最終プログラムで、「皆様、一緒に(主の祈り)をしましょう」とアナウンスがあり、主の祈りを告白しました。この一幕は私の中では、ビルとボブが祈り、告白しあっている光景と一致し、今回参加目的の答えを見つめることができた、と飛び上がる思いをいたしました。

主の祈りとは、新約聖書の、マタイによる福音書とルカによる福音書の中に記されており、イエス・キリストが弟子たちに「このように祈りなさい」と教えたとされています。日本では、教会関係者の集まり以外では、ほとんど見かけることのない光景です。

「AAは宗教ではない」と断言されている中で、このような大きな大会のプログラムに取り入れられるのは何故なのか。それは信仰を基盤とした社会習慣や文化が背景にあり、AAにもそのまま生かされているのだということを実感し、私の渡米の目的は達成されました。

ところで、メンバーのマークさんとアネッタさんから食事に誘われました。その時、食前の祈りがあり、別のテーブルの親子も食前の祈りをされていました。それを誰もジロジロ見ることもなく自然のことなのだ実感できました(ジロジロ見たのは私だけの様です)。

この場面も今回の目的達成の一つになりました。私の生まれ育った家庭でも、公衆の面前で食前の祈りをしなければならず、田舎だったこともあり偏見も強かったため、周りの視線が気になりその恥かしさといったら、なんとか逃れられないものかと幼心に思ったものです。



お誕生者の案内

1月	3日 齋藤さん	3月	1日 桑田さん	
	6日 小石川さん		5日 澤田さん	
	10日 山浦さん		11日 志垣さん	
	11日 富田さん		18日 井上さん	
	12日 石坂さん		31日 岩尾さん	
2月	14日 佐藤さん	4月	3日 坂崎さん	
	16日 緒方さん		3日 泉さん	
	20日 三吉さん		14日 森元さん	
	26日 上田さん		17日 岩永さん	
	31日 杉本さん		5月	20日 興裕さん
	31日 端中さん		6月	1日 松村さん
	3月			2日 緒方さん
4日 和泉さん		26日 桑崎さん		
4日 柳田さん		30日 高原さん		
16日 西川さん				
20日 松尾さん				
4月	25日 藤川さん			
	25日 園田さん			

発行: 社会福祉法人 致知会
救護施設 真和館
 〒861-2401 熊本県阿蘇郡西原村鳥子3072番地
 TEL:(096)279-1121 FAX:(096)279-1122
 E-mail:shinwakan@utopia.ocn.ne.jp
 HP:http://www2.ocn.ne.jp/~titikai/index.html



医務室便り

厳しい寒さの中、皆様いかがお過ごしでしょうか。今の寒い時期、インフルエンザを始めとしたウイルス感染症が流行しやすい時期でもあり、健康管理には十分に気を配りたいところです。日頃から栄養をしっかりと摂り、睡眠も十分にとって抵抗力をつけて、この寒い冬を乗り切っていきましょう。

今回は、冬場に必要となる乾燥対策についてご紹介します。

～乾燥対策～

①乾燥肌

冬には寒気が肌の血行や新陳代謝を悪くして皮膚や汗が出にくくなります。さらに、冷たく乾燥した風が肌の水分を奪う為、肌の水分が不足して乾燥肌となります。

<対策>・熱いお湯の入浴は避ける。

- ・体を洗う時は石鹸をよく泡立てて、タオルでの擦り過ぎに注意する。
- ・入浴後は保湿剤を塗る(15分以内が効果的)。

②感染症

空気の乾燥により、鼻や喉、気管支の粘膜も乾燥します。それにより、粘膜が炎症を起こしやすくなり、病原菌から体を守る防御機能が低下します。その為、風邪をひきやすくなります。

<対策>・加湿器を利用し、部屋の湿度を50～60%に保つ。

- ・マスクの使用(喉の保湿に効果的)。



編集後記

明けましておめでとうございます。

皆様お正月はいかがお過ごしになりましたでしょうか。今年は暖冬とはいえ、やはり冬の寒さは厳しいものですね。

巷では、インフルエンザとノロウイルスが流行しているようですので、皆様も十分お気をつけください。

これから益々寒さが厳しくなってくると思いますので、風邪などをひかれませぬようお体ご自愛ください。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

<編集責任>
田上

※「風の彩り」に掲載されている写真等は、ご本人の了解を得ております。

AA (アルコールiks・アノニマス)

インターナショナル・コンベンション旅行記



アルコールiks・アノニマス

アルコールiks・アノニマス(以下AAという)は、飲酒の問題を持つ男女の国際的な集まりです。AAは、どのような宗教、宗派、政党、組織、団体にも縛られていません。「お酒を止めたい」と願う人なら誰でもメンバーになることができます。

AAグループの誕生は、1935年6月、オハイオ州アクロンで、ニューヨークの株式ブローカービルと、アクロンの外科医ボブとの間で交わされた会話からでした。

その後二人は、アルコール依存症者が他のアルコール依存症者の手助けをすることにより、お互いが影響し合い、また、自分自身の回復を永続的なものにするというAAの行動のプログラムを実践し始めたのでした。

インターナショナル・コンベンション(世界大会)

5年に一度の、AAインターナショナル・コンベンション(平成27年7月1日～5日)がジョージア州アトランタで開催されました。以前から、このコンベンションの素晴らしさを耳にしており、是非一度、体感したいと思っていたところ、それが昨年実現しました。実際にアトランタで体感した光景は、とても壮大で希望に満ちたものでした。

アトランタの宿泊先のホテルから、各テーマや言語ごとにミーティングが開催される、ジョージアワールド・コンGRESSセンターへ続く道を歩く大勢の人の波。ネームプレートの色を見ると、多くの皆さんが依存症者ご本人です。行き交う人々が、気さくに声を掛け合い、ハグをしたり、握手をしたり、ハイタッチをしたり。現地ガイドが「これまで沢山のコンベンションを見てきましたが、これほど大規模なコンベンションは見たことがありません。」という程でした。

コンベンション期間中は、ダンスパーティや4日間を通してのマラソンミーティングがあり、3日はジョージアワールド・コンGRESSセンターで116回のミーティング、4日は112回ものミーティングが開催されました。

もちろん3日～4日の2日間を通して、日本語のミーティングも4回開かれました。

さらに、3日～5日の3日間を通して、ジョージアドームではビッグミーティングが開催され、感動の連続でした。

次回、AAインターナショナル・コンベンションは、2020年ミシガン州デトロイトで開催されます。アトランタで昼食をご馳走になった、マークさんとアネッタさんの地元です。

今回、AA発祥の地、アメリカに31年間在住しておられる「としさん」とも知り合いました。その後、「としさん」は遙々アメリカから真和館にご来館いただき、「日・米における、アルコール依存症の定義の違いについて」というテーマでAAのメッセージを運んでいただきました。

また、「生き方を変える努力をする」AAメンバーはアメリカではカッコいい存在で誇りなんだ、アメリカ社会は頑張っている人間を評価するようになってきている、と話して下さいました。

マークさん、アネッタさん、としさん、AAメンバーの皆様、AAに係わる皆様、快く送り出してくれた真和館職員の皆様、そして、家族を含め、お世話になった全ての方々に感謝いたします。ありがとうございました。

また、5年後にお会いしましょう。(記: 高尾)



～1ページの続き～

今回、多くの人と出会い、お声をかけていただきました。アメリカ在住31年間の「としさん」からも声をかけていただき、その数か月後には真和館にメッセージを運んでいただきました。ありがとうございました。

ノンアルコールの立場から好き勝手に書かせていただきました。聞き放し、書き放しと言うことでお許しください。

なお、真和館では、依存症の方々へ自助グループ参加の勧めをしております。断酒会、AA、GA、NA等、その人が希望されるグループへ自由に参加できるようになっています。

各自助グループのメンバーのみな様、どうかご理解いただき、今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

中国に行くときだけは、絶対に飲まずに行っていました。飲んでしまうと料理がおいしくなくなるからです。ただ1度だけ飲んでしまい、わけがわからないほどになりました。後で思えば、危ない事だったと思います。無事に帰国し今があります。

真和館に入って、2ヶ月を過ぎる頃、少し頭がクリアになり始めました。職員さんに「ここはどこですか?」と聞き、自分が阿蘇に居ることを初めて知りました。自分はなぜ杖を使っているのだろう、とも思いました。手すり歩行がやっとだった自分が、真和館から杖を借りて、少しずつ歩く練習をしているのだと言うことも、初めて知りました。その頃は、まだ足底は治っておらず歩くのが困難でした。

職員さんから、日本習字のペン字の練習をしてみたらどうですか?とすすめられ、『せんといかんたらうな〜』と思いつながら、言われるままに取り組みむことになりました。今も続いています。

私は、中学生、高校生の頃からソフトボール、バレーボール等のスポーツが好きでした。美術も大好きでした。将来は体育大学か美術大学に行きたいと思っていました。東京にいたころ、学研の仕事をしたことがあり、イラストが何度か採用され載ったことがあります。美術系が好きと言うことがペン字の練習と重なったのではないかなと思うのです。ペン習字は毎月検定を受けるために提出しなければなりません。多少のプレッシャーはかかりますが、精神的な安定を保つのに丁度よかったと思います。体調が良くなると、喫煙欲求も再燃しました。結局1日10本と決めてコントロールしています。

真和館に入ってから3年くらいは、飲酒欲求に悩まされました。今すぐにでも買いに行きたい。飛んで買いに行きたい!そういう気持ちがあふれ出て、どうにもこうにもならず、とてもつらかったです。

真和館の周りには、店がありません。だからどうにか我慢しました。ベッドに入り布団をかぶり、寝ころがってテレビをみるしかなく、でも、コマーシャルとか、テレビ画面にそのようなシーンが出てくると、たまったものではありませんでした。

そういうこともあり、私は、真和館に入ってから3年くらいは、ベッドで横になってばかりの毎日でした。それでよかった、と思うのです。職員さんから、たまには動いたほうがいいですよ、と言われていました。

平成24年6月10日、担当の職員さんから杖について指摘がありました。「杖について歩く、と言うより、杖を引きずって歩いていませんか?もう杖はいらないのではないですか?」と言われました。まったく、その通りで、自分でももういらないんじゃないかな〜と思いつつも、杖が手放せない、杖に依存の状態にありました。このタイミングが絶妙でした。その日を境に1歩自立したように思います。その頃には、飲酒欲求に襲われることもなくなっていました。

平成25年に入る頃から、1日中、テレビをみて過ごすことが多いので、何とかしたい、と思うようになりました。この年の5月にパークドームで施設関係のスポーツ交流会があり、私は、ニチレクボールの部に参加しました。真和館に入って初めて外部の催しに参加したことになります。職員さんは、あの手この手と、私を強引に誘い、少々強制的でしたが、でも思い切って参加し、良かったと思います。そして、今年で3回目の参加となる、〇〇断酒会に参加しました。これまた押しの一歩の誘いでした。アディクションフォーラムにも参加させていただきました。少しずつ外部に目をむけられるようになり、故郷の〇〇に帰りたいという思いが、実現するかもしれないと思うようになりました。

平成26年の6月から、故郷の〇〇に帰ってからスムーズに生活できるように、アパート生活の訓練を受けています。同時に、アルコール依存症の私が地域で生活するために絶対に欠かせない、自助グループの参加として、毎月2回、故郷の〇〇病院さんで開催される断酒会に参加させていただいております。

「真和館を出てからも、飲まずに居られるかどうか心配」と不安な思いを、断酒会の席で他のメンバーに話しました。すると、「そのために今、断酒会に参加しているのだろ!心配せずに帰っておいで」と力強く、すかさず答えていただき、大変心強い思いをしました。

平成27年6月には、指宿竹元病院の集中内観を受けさせていただきました。1週間内観し続け、途中でやめたくありませんでしたが、職員さんの〇〇さんが一緒に参加していたので、それを支えに何とか続けることができました。

集中内観では、最初に母親の事について考えを集中しました。母は、私がソフトボールやバレーボールで汚してきた衣類を、次の日にはいつもきれいに洗濯して揃えてくれました。既にこの世にはいない母に、私は何もしてやっけてはいないことに気がつきました。また、自分が東京にいた20年間の生活が年齢ごとに少しずつ分かるようになりました。今後とも日常生活の中で内観の時間をもちたいと思います。

来年の春頃には真和館を退所し、故郷の〇〇に帰る予定です。故郷に帰ってからも、断酒会に参加させていただきます。故郷の〇〇病院さんに通院させていただきます。今後とも、どうかよろしくお願ひ致します。

ご清聴、ありがとうございました。





酒歴発表



入所者Aさん(50代 男性)がこれまでの自分を振り返り、地域の断酒会で酒歴発表をされましたので、その内容を掲載させていただきます。

みなさん、こんにちは、〇〇と申します。
現在私は、阿蘇郡西原村にある、真和館に住んでおります。
生まれも、育ちも、〇〇です。高校卒業後、東京で就職しました。しかし、原因不明の腰痛と足の腫れで離職し、〇〇に帰ってきました。40歳のころです。
借家で单身生活を送っていましたが、多量飲酒による体調不良と精神的落ち込みから、食事も摂れず、ごみ出しもできず、不衛生な状態のなかにおりました。普通の生活が出来なくなっていたのです。酒中心の生活でした。
平成19年には、〇〇病院に入院し治療を受けました。退院してからアパート生活になりました。しかし、抗酒剤の服用を自己中断し、病院にも行きませんでした。

平成21年1月21日、ベッドの上で動けなくなっているところを、心配して訪問にこられた〇〇市福祉事務所の職員さんに発見され、総合病院に救急搬送されました。その時の事はほとんど覚えていませんが、救急車に乗った...ということだけは分かりました。

当時、それまでに2回救急車を呼んだことがあります。1回は、玄関までやっとの思いで歩いて行き、動けなくなり倒れました。隣に住んでおられた大家さんが気づき、呼んでくれました。もう1回は自分で呼びました。そういうことがあったので、救急隊員の人も私の事を覚えておられ、「またか...」と言う様に思われたと思います。今思えば、酔っばらっている私を、よく救急車に乗せていただけたものだと感謝しています。

こんなこともあります。アルコール依存症で食事も摂らず、栄養は不足し、おまけに不衛生な環境で生活していましたので、足が腫れ痛くなりました。総合病院を受診しましたが、「これはひどい、うちではどうにもできないので、すぐに大きな病院に行く必要があります」と言われ、そのまま、〇〇病院に運ばれました。この時は救急車ではありませんでした。

〇〇病院では、「足が腐っていて切断しないといけないかもしれません」と言われ、頭がボーッとすることを覚えています。麻酔がかかり、足底と甲の2か所、要するに上からと下から切られ、大量の膿を出されました。なんとか切断を免れることが出来、ホッとしたものの、その後も飲酒はやめられませんでした。連続飲酒です。足の傷の治りは悪く、褥瘡はジクジクしており、痛くて足を床に着けて歩くことは大変困難でした。その様な中、先ほど述べましたように、ベッド上で倒れ動けなくなっているところを発見され救急搬送されたということになります。

総合病院に救急搬送されて1週間くらいして、福祉事務所の担当の人と真和館の人が面会に来られました。その時の私は、看護師さん二人に両脇をかかえられ、その腕にぶら下がった状態で足は宙に浮いていた状態だったそうです。ぜんぜん覚えてないです。頭の中は混乱してフワフワした感じだったと思います。それから約1週間後の平成21年2月6日に真和館に入りました。何が何だかさっぱりわからない状態で、ほとんど覚えていません。今思えば、入浴や洗濯など、全部職員さんまかせになっていました。何もできない状態でした。

平成21年2月25日、〇〇病院を初受診しました。主治医は〇〇先生です。真和館の看護師さんが連れて行ってくれました。

〇〇先生から、最初の飲酒動機、飲んだ時の気持ちについて聞かれました。「高校生の時飲みました。仲間が飲んで見ているのを見て飲んでみようかなと思いました。かっこつけたかっただけです。もともと弱いので飲めないですが、チビチビ朝から飲むのが私のいけないところ...」と答えたそうです。〇〇先生から「ただ大酒飲みだけでは依存症とはいわない。アルコールはモルヒネみたいな麻薬のようなもの。アルコールが切れると、不眠や体の震え、他にもいろいろな症状が出てくる。朝からチビチビ飲み続けるのは、よくある、たちの悪い飲み方の一つです」と話が合ったそうです。この時のことは全くおぼえていません。

実は、本当のところ、私の初飲酒は、小学生の時なのです。友達の家がお寺でした。そこに遊びに行くと、チビッと飲みました。すぐにひっくり返りました。お寺にはいつでもお酒があり、お菓子もいっぱいありました。私はお菓子が大好きです。しょっちゅう遊びに行くと、お酒を飲み、お菓子を食べていました。それが中学生まで続きました。本格的に飲みはじめたのは高校生からです。そういうことで私の飲酒歴は相当長いものになると思います。

東京に就職してからも、自分ではアルコール依存症の自覚はありませんでしたが、その道に、スッポリはまってしまっていたのだと思うのです。だから、原因不明の腰痛や足の腫れなどがあったのだと、今さらながら思うのです。

ところで、私は中華料理が大好きです。というのも、就職先はホテルのレストランでした。そこで、新しいメニュー開発があると試食をしていました。その時、中華料理のおいしさに目覚めました。そして、北京、上海、重慶等など、中国に40回ほど行きました。全部、中華料理を食べることが目的でした。日本では味わえない、おいしい中華料理を食べ歩きました。特に上海はどのお店に入っても、とてもおいしかったです。

卓球バレー



<全国障がい者スポーツ大会「2015・紀の国わかやま大会」>

平成27年10月18日(日)に開催された、全国障がい者スポーツ大会「2015・紀の国わかやま大会」卓球バレー・オープン競技に西ブロック連盟の代表として出場しました。

全国から24チーム、うち、西ブロック連盟からは3チームが代表として選抜され、真和館チームもその中の1チームに選ばれました。

結果は、惜しくも上位入賞には届きませんでしたが、ベスト8の結果を残すことができました。

大会のルールは、開催地である和歌山県卓球バレー協会のルールを採用されたので、多少戸惑うところもありましたが、全員で協力し合い、声を掛け合いながら、心に残る大会となりました。

また、卓球バレーを真和館に紹介頂いた「もえぎの中根さん」、熊本県卓球バレー協会事務局長であり、真和館チームを最初から指導して頂いている「一安先生」も真和館チームに同行して頂きました。

全国大会という大きな大会で緊張されていた選手のみなさんにとって心強い応援でした。



<第8回火の国杯争奪九州卓球バレー大会>

平成27年11月8日(日)、熊本県身体障がい者福祉センター体育館で、第8回火の国杯争奪九州卓球バレー大会が開催されました。今大会は、山口県から2チーム、大分県から2チーム、宮崎県から3チーム、佐賀県から3チーム、熊本県から7チームの計17チームが参加しました。結果は、Aチームが勝ち進み、決勝戦でわかやま大会を始め、様々な大会で負けなしで連勝を続けられている山口県の「ひまわりチーム」と対戦しましたが、2-1で惜しくも敗れ準優勝でした。

優勝まであと一歩のところまで行き、しかも日本一のチームから1セット取れたことは、自信に繋がったと思います。



<第6回熊本市事業団杯熊本卓球バレー交流大会>

平成27年12月13日(日)、熊本県内から6チームが参加し、熊本市東部交流センターで、第6回熊本市事業団杯熊本卓球バレー交流大会が開催されました。結果は、真和館チーム同士で決勝戦を行うこととなり、Aチームが優勝、Bチームが準優勝という結果を収めることができました。選手の方も大変喜んでおられ、今後の励みになったようです。



真和館チーム



Aチーム

Bチーム





平成27年度入所者アンケート



9月に入所者のみなさまに、アンケート(自由に記入、書けない方は聞き取り代筆)をお願いしました。アンケートの内容は、例年と同じく、「①今の真和館の生活をどう思いますか」「②毎日の生活の中で何か希望があれば聞かせてください」の2項目です。

1. 今の真和館生活をどう思いますか。

- ・救護施設に入所することは今までありませんでした。ただ、病院と比べるとはるかに良いと思っています。
- ・卓球パレーをやって最近楽しいです。
- ・最高です。飯がうまくてゆっくりゆっくりできる。
- ・なにぶんばあちゃんなのでお手やわらかに。今の真和館の生活でいいと思います。
- ・楽しく生活しています。
- ・ストレスがたまるといこともない。
- ・楽しい。安心して生活ができています。
- ・ここにいる限りは、長くいるから注文はない。
- ・満足しています。
- ・のんびりして良か。
- ・居室に昼間エアコンが入らないの嫌だ。
- ・あまり面白くないけど、他にいく所はありません。
- ・何も思わないけど、退屈だ。
- ・少し小便器を増やしてもらいたい。
- ・普通だと思います。中には他の所と比べて耳障りです。
- ・紙貼り作業が忙しいです。
- ・変わったと思います。

※施設に関するものが41件ありました。好意的評価も沢山いただきました。

- ・ごはんがおいしくない。
- ・まあまあです。食事がもう少しおいしくなれば良い。

※真和館の食事はおいしいという定評をいただいておりますが、今回2件の苦情をいただきました。

・とても良いと思います。私は真和館に来て父も母も亡くなりました。私は父と母を二人共亡くし何をやる力もありません。でも施設長副施設長が私の面倒を見て下さるので心強く元気が出ます。何処か他の施設に行こうかと色々考えたりもしますが、職員さんともとてもいい人なので心が強くなり、私が亡くなるまでお世話になりたいと思っています。

・職員に用事があって行ってもしらん様な態度をするので、話し相手ぐらいでもいいと思う。

・あんまりようなかね。嫌いな職員がいる。

※職員に関するものは4件ありました。その内、3件が苦情でした。

・職員さんは別としてジェントルマンがいない。女性がいても考えてほしい。

・私がここに来て1年と4ヶ月になりますが、その頃はここの施設もいいなと思っていましたが、今は面白くないです。いじめやケンカが多いと思っています。早くここから出たいと思っています。

・泥棒がおる。

※対人に関するものは3件ありました。仲良く暮らしていただければと願っております。

・支給金を1,000円でもいいから上げてほしい。

・人生人それぞれですが皆様には、病気に負けず頑張っておられますが、自分もそれを聞くと、もっとやらなければと毎日反省して過ごしています。

・自分の身体が動かなくなっているのが辛いです。

・アパートに住みたい。

・日曜日は休みたい。

・過ごしやすいです。担当さんとの食事を楽しみにしています。チャンポン・おにぎり・コーヒーが食べれるのが楽しみです。

・別に今まででいいと思いますが、私事ですが、いつまで居れば社会に帰れますか？私の家族の者、私の姉の引受人が真和館を出る許可をすれば、社会、アパート生活ができますか。

※その他様々な思いや意見が9件ありました。



2. 毎日の生活の中で、何か希望があればお聞かせください。

- ・ここに居る間は希望はない。近頃はこんな事も考えなくなった。
- ・毎日の生活で希望はありません。
- ・食事に出てくるご飯は白めしがいい(チャーハンやおこわはいい)。
- ・麺類をたくさん食べたい。
- ・卵焼きと魚の煮つけは食べたくない。
- ・刺身を食べたいです。
- ・心の底から自分の悩みを聞いてくれる人が欲しい(職員で)。
- ・セクハラをしないでほしい。
- ・もっと楽しく毎日が面白く生活して行けるような施設にしてほしいです。ペットがいることは楽しいと思いますが、人間どうしがもっと仲良く暮らしたいです。
- ・2~3日休ませてください。眠いです。
- ・以前あった、お芝居見学と山登りに参加したい。
- ・たまにビールとタバコがほしい。
- ・テレビが見たい(持っていない)。
- ・2階のテレビの音を下げてください。
- ・自分に合った、面白い仕事があればやりたい。
- ・入所の全員に日記帳をつけてほしい。
- ・私は、この真和館に来て、始めはいい所だと思い、また、食事、一人の部屋を与えていただき心から感謝と有り難く思いました。薬物の勉強会も、良し頑張ろうと思いましたが、今は何も希望が出て来ません。体の健康面もあり、腰です。
- ・暇があれば寝かせてほしい。
- ・1日1日を大事にしていかなければと思っている。
- ・断酒、断薬し続けていきたいので、1日1日を生きていきたいと思っています。
- ・弱い者のとこを盗ってさるく。

※様々な希望が50件ありました。施設として改善できるところは、改善して行きます。



ありがとうございました!



給食嗜好調査アンケート

真和館では、年に3回嗜好調査を行っています。アンケートの内容は、献立に反映できるものをテーマとし、献立作成の際、参考にさせていただいております。

今回は、平成27年度第1回目の嗜好調査「季節ごとに食べたいメニュー」について、調査を行いましたので、ご報告します。

～結果～

合計:春32品、夏14品、秋33品、冬28品

春:1位 ちらし寿司 2位 あさり汁 3位 天ぷら 4位 鯛めし、ラーメン 5位 カレーライス

夏:1位 うなぎ 2位 冷やし中華 3位 ソーメン 4位 カレーライス 5位 スイカ

秋:1位 秋刀魚の塩焼き 2位 栗ごはん 3位 焼き芋 4位 きのご飯 5位 ちゃんぽん

冬:1位 おでん 2位 シチュー 3位 ブリ大根 4位 水炊き、ラーメン 5位 刺身

季節ごとで、旬のメニューが上位をしめており、入所者のみなさんが、いつどのようなメニューを食べたいのか、把握することができました。なかには、季節に関係なく、真和館の人気メニューである、ラーメン、カレー、ハンバーグなどを食べたいと、言われている入所者の方もおられました。人気メニューの献立への取入れは、入所者のみなさんの満足度向上につながると、改めて実感することができました。

現在、真和館での人気メニューに関する平成27年度第2回目の嗜好調査を行っています。第1回目、第2回目の結果を踏まえ、今後、メニューの提供時期、提供頻度等の検討を行います。その内容を、給食へ反映することで、より美味しい給食作りを目指していきます。

